

東京 IPO 特別コラム

2018年1月5日 Vol.107

今年もIPO銘柄で高い運用成果を

皆様、明けましておめでとうございます。本年も本コラムのご愛読を賜りますようお願い申し上げます。華々しくスタートした今年の株式相場。市場関係者の強気の声や市場見通しもあってか、日経平均は大発会と本日の2日間で950円も上昇。NYダウも2.5万ドル台に乗せるなど国内外において年初の株高を目の当たりにして私たちは始まったばかりの2018年に期待と夢を膨らますことになるのかも知れません。とは言え、株式投資にリスクはつきもの。相場は振れやすく株価も山あり谷ありの連続です。スタートしたばかりでお屠蘇気分の中で形成されている株価も来週以降は多少冷静さを取り戻すものと考えられます。

チャレンジングな投資家の皆さんにとっては全体相場の上昇とともに今年もIPO銘柄への関心を高めて頂くことが、運用成果の向上につながると期待しております。昨年は89銘柄がIPOするに至りました。その内訳はマザーズ49銘柄、JQ18銘柄、東証1部11銘柄、東証2部8銘柄、アンビシャス2銘柄、名証2部1銘柄となりました。成長性の高い銘柄に投資すれば高いリターンが得られるという簡単な理屈をもってマザーズなど新興市場にIPOした銘柄にリスクテイクしてキャピタルゲインを中心にしたリターンを上げる。今年もこの成果向上策は有効なのでしょうか。昨年のIPO銘柄を集計すると、業績が底堅いという条件は成果向上にとって不可欠なのかも知れませんが、そのほか需給（放出株数の少なさ）、時価総額、PER、株式分割、増配、市場替え、成長につながる材料、投資テーマとの関わりなどのチェックポイントをクリアした銘柄に成果を高めるヒントが隠されていると言えるのかも知れません。

銘柄のユニバースは直近1年間だけではなく2年間、3年間と広げてみていくところしたチェックポイントが運用成果の向上にとって有効であることがますます明確にわかってきます。リターンを高めるには足下の企業業績が堅調かどうかよりもその企業の将来性を読み説くことが重要で鼻の効く投資家なら先行投資期にある銘柄を好んで選び、時間をかけてリターンを上げようと努める独特の勝ちパターンが存在すると筆者は考えています。問題は企業内容の把握にとってIPO銘柄から発信される脆弱な情報はネックとなる点です。企業はできるだけ正確な情報を、株主・投資家に提供し、積極的なIRに努めないとなりません。IRを通じ多くの投資家との交流が実現できればIPOしたばかりの企業は次の成長ステージに向かうこととなります。

昨年後半からの株高で個人投資家は良い意味でパワーがついてきたと感じられます。買ってすぐ売るデイトレードの発想ではなくしっかりロングランで保有する余裕のある投資家の増加は市場に安定性をもたらすこととなります。中には年齢が比較的若い個人投資家自らが直接企業にアプローチして、調査活動を行い大株主となったケースもあるようです。今年もまた、短期的には悲喜こもごものIPO銘柄投資でしょうが、長期的な視点でリターンを得る発想で取り込まれる積極的投資家の出現に大いに期待した

東京 IPO 特別コラム

いと思います。

*今回配信予定しておりました「直近 IPO 銘柄中から筆者が特別に選定した注目銘柄」については筆者の都合で次号の本コラムにおいて取り上げたいと思っておりますので宜しくお願いします。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)